

学習内容と到達目標

☞ 卒業研究の研究計画について説明する（テーマ、目的、方法、具体的な調査項目など）。

注. このトピック6（6課・13課・20課）で紹介されている調査とそのデータは、Benesse 教育研究開発センターが2004年に行った「第1回子ども生活実態基本調査報告書」に基づいている。

指導のポイント

1. INTRODUCTION 教育学部の学生である山川さんが「私たちは子供たちの毎日の生活について調査したいと思います」と話しているので、彼女が具体的に何を調査しようとしているのかを想像させる。また、日本では最近どのような教育問題があるか、また学生たちの母国ではどのような教育問題があるのかを話させる。

2. LISTENING 「問題行動」というキーワードさえ理解できれば、4課や5課に比べて語彙的にも内容的にも平易なので、聞き取りはそれほど難しくないはず。なので、まず一度通して聞かせ、山川さんたちが「子供たちの毎日の生活」というテーマを選んだ背景に学校での子供たちの「問題行動」があることに注目させる。その上で、問題行動の原因として何が考えられるかを学習者に質問し、考えさせ、再度聞かせる。「不規則な生活」や「テレビゲーム」、「親子の対話の欠如」など、いくつか原因を拾えたら、最後に具体的な調査方法や質問の内容に注意をして、もう一度聞かせる。このように、表面的な理解に留めるのではなく、聞き取った内容・情報がどう関連し合っているか（ここでは因果関係）を考えながら聞くように促すことが重要。

3. FOCUS いずれも単純な活用の練習なので、難なくできるはず。③に関しては、『わくわく文法リスニング99』（凡人社）の86課に同じような練習がある。

4. LISTENING 研究テーマとその背後にある疑問を意識して聞かせるようにする。

日本語のクラスでスピーチや発表させようとする、学習者は「日本の祭り」や「日本の料理」といった漠然としたテーマを選びがち。小学校や中学校の自由研究ならそれでよいかもしれないが、大学生なら、もう少し大学生らしいスピーチや発表をしてもらいたいもの。しかし、そのためには、ただ「おもしろそうだから」というだけでテーマを選ぶのではなく、日本での生活や勉学を通して感じた疑問を突き詰める姿勢が重要で、このトピック6はそのような探究心を身につけさせることを1つの目標としている。

5. SPEAKING 埋込疑問文と「～つもりです」をうまく使って説明できれば、それでOK。

6. PAIR WORK

研究テーマの具体例を6つ提示しているが、学習者自身の興味・関心に基づいて決めさせてもよい（ただし、たいていの学習者はそんなにすぐにテーマを決められないので、気をつけること）。学習者の感じた疑問からテーマが生まれ、その疑問を検証するために調査（質問）を行うので、「疑問」「テーマ」「調査」の3つの関わりをうまく説明できているかどうかの評価のポイントになる。

活動例

①小学校訪問

- ☞ 九大の国際コースでは今年度から小学校訪問を日本語クラスの課外授業として組み入れた。小学校での外国語活動が必須化された今、留学生との交流を国際理解教育の一環として取り入れたいと希望する学校は今後増えていくものと思われる。今年度は2月9日実施予定（活動内容の詳細や学生たちの反応などは後日）。

②100人インタビュープロジェクト

- ☞ 長崎外国語大学の近藤有美先生の研究に刺激を受け、今年度から始めた新たなプロジェクト。プロジェクトの詳細と成果は今後日本語教育学会等で発表していく予定。お楽しみに。

授業で使えるリソース

- ☞ Benesse 教育研究開発センターは2009年に「**第2回子ども生活実態基本調査報告書**」を行っており、この5年間でどのような変化があったのかを比較検討してみるのもおもしろい。
- ☞ You Tube には、2005年に日本テレビ系列で放送された天海祐希主演の「女王の教室」が第1話から最終話まで全て英訳付きでアップロードされている。「The Queen's Classroom」で検索。ちなみにこのドラマの脚本家は、現在放送中の「家政婦のミタ」の脚本も書いている。